

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成28年4月25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科循環器内科学

職 名・学 年 博士課程4年

氏 名 中 妻 賢 志

助 成 の 種 類	平成28年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	米国心臓病学会学術集会 2016 The American College of Cardiology (ACC 2016)		
発 表 題 目	Second-generation Versus First-generation Drug-eluting Stents In Patients With And Without Diabetes Mellitus: Pooled Analysis From The RESET And NEXT Trials		
開 催 場 所	アメリカ合衆国、シカゴ		
渡 航 期 間	平成28年4月2日 ～ 平成28年4月4日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	学会参加費(10万円)	
		宿泊費(約10万円)	
渡航費、交通費の一部(約10万円)			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 米国での学会参加費も高額だったのですが、貴財団より助成を受けることで金銭面の心配をすることなく、学会での発表や見聞を広めることに努めることができました。今後もこの助成制度を継続していただくことを希望します。このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。		

成果の概要

学術集会名:米国心臓病学会学術集会 2016、The American College of Cardiology (ACC 2016)

開催場所:アメリカ合衆国、シカゴ

開催期間:平成28年4月2日～平成28年4月4日

【学術集会の概要】

平成28年4月2日～4月4日にThe American College of Cardiology(ACC 2016)がアメリカ合衆国、シカゴにて開催されました。ACC 2016は世界各国から約2万人が参加する世界最大規模の循環器学会で循環器診療の注目されるtopics が議論されるため、循環器分野に携わる世界中の臨床医にとって非常に大切な学会の一つです。学会は3日間にわたって開催され、Late Breaking clinical trial、シンポジウム、口述発表、ポスター発表などが行われます。これらの充実したプログラムに参加することにより、世界で今注目されている研究について多くの知識を得ることが出来るほか、論文に未発表の最先端の知見にふれることができました。

【発表内容】

今回、我々は「第二世代薬剤溶出性ステントと第一世代薬剤溶出性ステントの糖尿病患者群と非糖尿病患者群での比較：RESET 試験と NEXT 試験統合解析」という内容でポスター発表を行いました。冠動脈狭窄に対して経皮冠動脈形成術を行う際に、大半の症例で再狭窄予防目的にステントと呼ばれる金属を使用しますが、ステントを使用した治療を行ったとしても、特に糖尿病(DM)患者においては冠動脈の再狭窄が大きな問題とされてきました。そこで、再狭窄を少なくするために、現在は薬剤溶出ステント(DES)が日常的に使用されています。ただし、第一世代の薬剤溶出性ステント(G1DES)においても糖尿病患者、特にインスリン使用患者で標的部位再血行再建(TLR)の割合が高いとされていました。そこで、最近では第二世代(G2DES)が登場し、世界各国で使用されています。一方、G1DESと比較してG2DESの糖尿病患者への影響を評価したデータは限られています。そのため、今回、我が国において行われた大規模なRCTである、RESET 試験[シロリムス溶出性ステント(G1DES) vs エベロリムス溶出性ステント (G2DES)]と NEXT 試験[エベロリムス溶出性ステント(G2DES) vs バイオリムス溶出性ステント(G2DES)]の2つのRCTを統合し、G1DESとG2DESの3年間のTLR累積発生率をDM群、非DM群でそれぞれ評価した結果を発表しました。なお、この2つのRCTでは、DMの有無が層別化因子として組み込まれています。統合解析では6431人が対象患者となり、それぞれの群での解析対象患者数はDM群でG1DES:713人 vs G2DES:2211人、非DM群ではG1DES:887人 vs G2DES:2620人でした。解析の結果、G1-DESとG2-DESの比較で、DM群では10.1% vs 8.7%、 $p=0.23$ 、非DM群では6.2% vs 5.7%、 $p=0.62$ といずれの群でもTLRで有意差を認めませんでした。また、インスリン使用DM患者においてはG1DES:16.3% vs G2DES:11.3%、 $p=0.09$ であった。結論としては、G2DESはG1DESと比較して、DM群と非DM群の両群において、3年累積TLR発生率は有意差を認めませんでした。しかし、G2DESはインスリン使用DM患者においては、G1DESよりもTLRが少ない傾向を認めました。今回

のポスター発表を行う事により、研究内容に対しての様々な質問を受けました。その中には、インスリン使用 DM 患者への G2DES の影響に関して、興味を持って質問して下さる方が多く、論文文化へむけての大きな動機付けとなり、また、今後の研究への参考となりました。糖尿病患者は今後ますます増えて来る中で、まだ、糖尿病の冠動脈狭窄に関しての影響や治療方法は未だ不明な部分もあり、今後も研究を続けていく必要性が高い分野であると改めて感じるよい機会となりました。

【謝辞】

国際学会で他国の研究者から意見をいただくことができたことは大変貴重な経験となりました。経済的な面からご支援いただけましたことをこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。